

# 校 区 の 概 要

## 1 校区の様子

本校は、太平洋に面した和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置し、煙樹海岸県立自然公園内の豊かな自然に恵まれた静かな環境にある。

美浜町は、東西に約9km、南北に約2.5kmの小規模な町で、本校は、町内唯一の中学校である。校区には、和田・松原と二つの小学校区があり三尾地区のバス通学生以外のほとんどの生徒は自転車通学をしている。

校区の産業は、かつては農業・漁業・商業とバランスの良い地域であったが、近年は住宅地開発が進み、第三次産業が増加し徐々に変貌しつつある。それに伴って保護者の職種も多種多様にわたっている。

保護者は、共働きの家庭が多く、教育熱心で学校教育への期待も高い。その反面、子育てに不安を感じている保護者も少なくない。さらに、都市化現象、急速な少子高齢化に伴って、地域の教育も何らかの影響を受けているところである。

地域には、老人ホーム・支援学校・和歌山病院・障害者の働く作業所などの福祉施設が多くあり、交流学习やふれあい体験学習など福祉交流教育の学習の場となっている。

## 2 学校・生徒の状況

全体的に明朗・快活で何事にも真面目に取り組む生徒、自ら進んで積極的に挨拶する生徒が多い。学習活動においても落ち着いた雰囲気での授業を進めることが出来きている。しかし、学力面、生活面に課題がある生徒も少なくない。また、生活体験が乏しく自己表現力、コミュニケーション力や創意工夫する力が弱い生徒も見られる。このような状況を踏まえ、指導方法の工夫改善（わかる授業の展開とTT指導のあり方等）、補充学習や家庭学習習慣の定着に取り組んでいる。

部活動においては、長年本校は盛んに活動をおこなってきたが、平成12年度からより主体的な活動にするため自由入部制を導入、以前の全員入部制に比べ活動内容が充実してきた。全ての部において生徒の自主的・積極的な活動へ部員の意識向上が見られ、成績も良い結果を残している。

かつては、一部生徒の規範意識の希薄による授業妨害や不登校問題等、生徒指導面での課題が多く見られた。そのため、少人数授業・チームティーチング・ローカ巡視・個々の生徒理解と支援のための担任による教育相談等生徒にふれあい、寄り添う指導に取り組み、またスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、図書館司書の配置、外部講師の招聘等、様々な連携・協力を進めてきた。またコロナ禍による影響で教育活動及び教育課程の見直し、再編を行ってきたが、今後は柔軟に対応し、より工夫した教育活動を展開していく予定である。

このような状況を踏まえ、さらに規範意識の向上と人権教育・道徳教育及び個に応じた指導と学力向上に向けた取組と充実を図り、保護者、地域、関係機関との連携により更に質の高い教育を追求していきたいと考えている。

# 教 育 目 標

## — 豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒を育てる —

1. 生命を尊重する心や他人を思いやる心を持つ生徒
2. 基本的な生活習慣を身につけ、きまりを守り、自分の行動に責任を持つ生徒
3. 自主・自立の心と強い意志を持ち、実践する生徒
4. 自ら生きる目標を求め、その実現に努力する生徒
5. 感謝の心や公共のために尽くす心を持つ生徒

## 本年度の研究テーマ

ふれあいを大切にし、けじめを重んじる

生徒指導並びに学習指導の充実

～ 深い学びと自己実現に向けて ～

### 【研究テーマの設定理由】

本校は、以前は生徒指導面での問題が重要な課題であった。そこで、対処療法的な生徒指導ではなく積極的な生徒指導を組織的に展開することに方向性を変えながら、学習指導においては、「わかる授業」の創造と「わかる楽しさ」から「学習意欲」を向上させる指導方法の工夫改善に取り組んできた。それは、生徒指導と学習指導を連動させることで、生徒が意欲と自信を持ち、豊かな自己形成、自己実現に努める実践的な態度が育成できると考えたからである。その結果、生徒たちにもあたりまえのことがあたりまえにできる習慣が徐々についてきた。

また、新学習指導要領実施に伴い、これまでの取組を継承しつつ生徒とのコミュニケーションの大切さと、個に応じた指導、人権教育、道徳教育の重要性を再認識して実践しているところである。学習面においては「わかる授業」「わかる楽しさ」から「深い学び」へと誘う指導の工夫改善に取り組み、「学習意欲の向上」と「できる力」の育成に繋がりたいと考える。

以上のことから、本年度の研究テーマを

「ふれあいを大切にし、けじめを重んじる生徒指導並びに学習指導の充実」

～深い学びと自己実現に向けて～ に設定した。